

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第6集

中寺廃寺跡

平成20年度

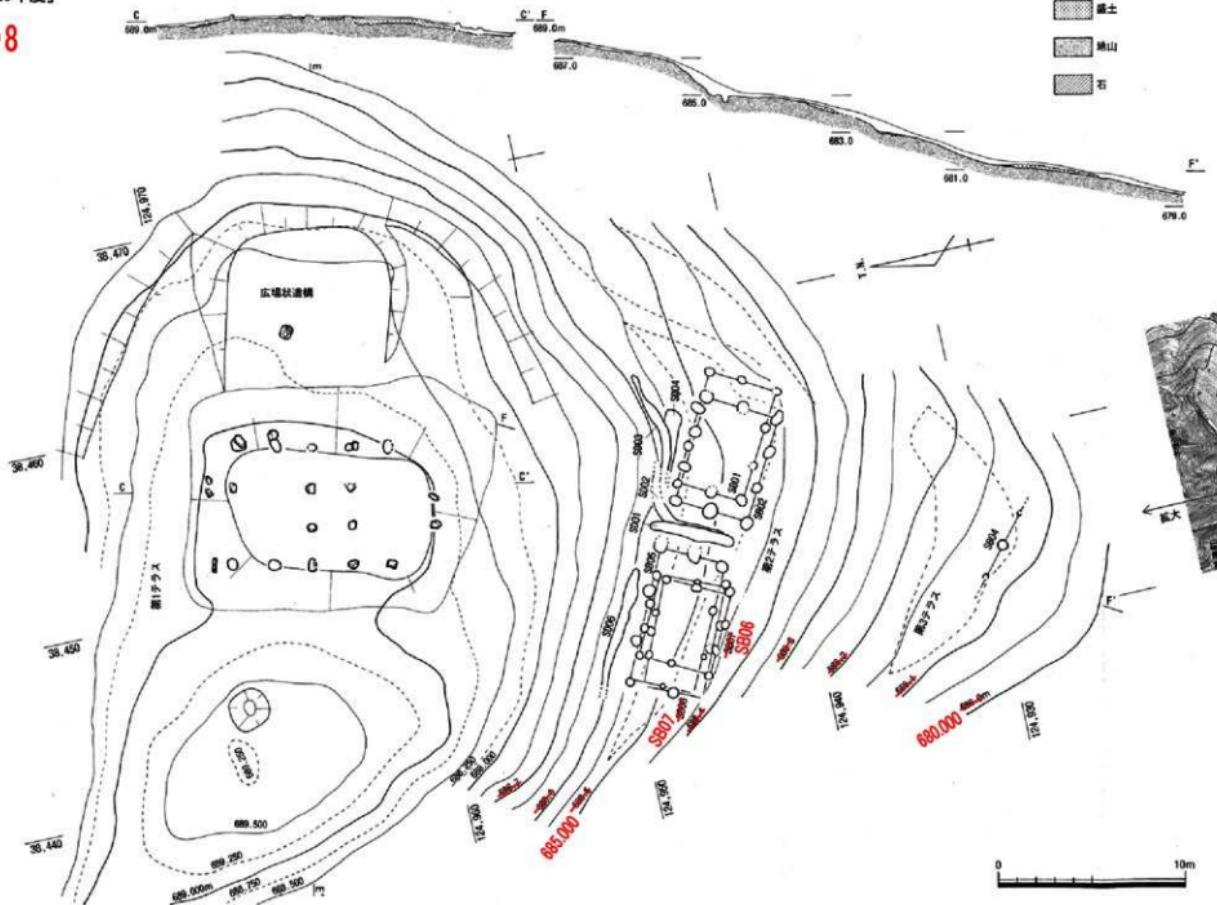


2009年3月

まんのう町教育委員会

「中寺廃寺跡 平成20年度」

訂正 P7・8





A) B地区第2テラス西側（エリアC）全景（北西より）



B) B地区第2テラス西側（エリアC）金属製品出土状況（南より）

序 文

まんのう町教育委員会では、本町の造田にある大川山（標高1042.9m）の西尾根、標高600～700mの辺りに広がる古代の山林寺院跡である「中寺廃寺跡」の発掘調査を行っております。

昭和59年の発掘調査で塔跡を確認し、塔心礎石下から鎮壇具として納められた10世紀前半の壺などが見つかりました。平成16年から平成19年の発掘調査で、「中寺廃寺跡」はA～C地区の約1kmの範囲にそれぞれ主要な建物や石組が造られていることが分かり、中心地区であるA地区では仏堂跡や塔跡が規則的に造られていることが分かりました。

これらの遺構より8世紀後半から12世紀の遺物が出土しました。平安時代に入りますと、比叡山や高野山のように山林寺院が営まれるようになりますが、地方でも「中寺廃寺跡」のように盛んに山林寺院が営まれたことが知られます。

平成20年3月28日に、「中寺廃寺跡」は、古代山林寺院として全国的に貴重な遺跡であるとして、国指定史跡となりました。

平成20年度は、B地区（僧坊跡）の発掘調査を行い、中国浙江省越州窑産青磁片（9世紀末）、兵庫県西播磨産須恵器片、金属製鏡片（青銅の仏具）等が見つかりました。

平成21年度は、B地区の第3テラスの発掘調査を継続するとともに、史跡中寺廃寺跡整備検討委員会の丹羽佑一委員長様をはじめ委員の皆様方のご指導を得ながら、自然と調和した史跡整備も進めてまいりたいと考えております。

さて、このたび、多くの方々のご高配とご尽力により、「中寺廃寺跡」の調査報告書第6集を発行する運びとなりました。本報告書が、古代山林仏教の研究の資料として広く活用されますとともに、文化財に対する理解と关心が一層深められることになれば幸いです。

最後になりましたが、本発掘調査に格別のご指導とご協力をいただいております関係の皆様方に心から深く感謝申し上げますとともに、今後ともよろしくご支援賜りますようお願い申し上げ、序文に代えさせていただきます。

平成21年3月

まんのう町教育委員会

教育長 北山正道

例　　言

1. 本報告書は、まんのう町教育委員会が、文化庁と香川県の文化財補助金を受けて平成20年度国庫補助事業として実施した、香川県仲多度郡まんのう町造出3469-2他に所在する中寺庵寺跡の報告を収録した。
2. 発掘調査及び報告書の作成はまんのう町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び報告書の作成にあたって、以下の方々のご教示、また関係機関の協力を得た。記して謝意を表したい。(敬称略、五十音順)
上原真人、魚島純一、片桐孝浩、鈴木信男、高木敬子、中山尚子、丹羽佑一、平澤 翠、藤好史郎、森 格也、山岸常人
香川県教育委員会生涯学習・文化財課、香川県埋蔵文化財センター、香川県立ミュージアム、徳島県立博物館、まんのう町文化財保護協会
4. 本報告書で用いる方位の北は、旧国土地理院第Ⅳ系の北であり、標高は東京湾平均海水位(T.P.)を基準としている。
また、遺構は下記の略号により表示している。
SB…掘立柱建物跡 SD…溝跡 SP…柱穴跡
5. 掘図の一部に国土地理院国土地理院基本図(1/5,000)を複製した琴南町全図(承認番号四復第238号)及び、国土地理院地形図「内出」(1/25,000)を使用した。
6. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修「新版標準上色帖 1994年度版」による。

目 次

題 字 金澤 正親氏
表紙写真 中寺廃寺跡遠景（南東より）

1. 立地と環境.....	1
2. 調査の経緯と経過.....	4
(1) 調査に至る経緯.....	4
(2) 調査の経過.....	4
(3) 周知と活用.....	5
3. 調査の成果.....	6
(1) 遺構.....	6
①B地区第1テラス	6
②B地区第2テラス	13
(2) 遺物.....	18
①B地区第1テラス出土上遺物	18
②B地区第1・第2テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物	18
③B地区第2テラス西側（エリアC）出土遺物	19
④B地区第1・第2テラス間東側斜面（エリアD）出土遺物	20
⑤B地区第2テラス東側（エリアB・D）出土遺物	22
⑥B地区第2テラス西側（エリアC）出土の金属製品について	22
4. まとめ.....	21

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図.....	2
第2図 平坦地分布図.....	3
第3図 B地区第1～第3テラス半断面図	7
第4図 B地区第1テラス平・断面図	9
第5図 B地区第2テラス平・断面図	11
第6図 B地区第2テラスSB01・02平・断面図	14
第7図 B地区第2テラスSB05平・断面図	15
第8図 B地区第2テラスSB06・07平・断面図	17
第9図 B地区第1テラス、第1・第2テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物実測図	19
第10図 B地区第2テラス西側（エリアC）出土遺物実測図	21
第11図 B地区第1・第2テラス間東側斜面（エリアB）、第2テラス東側（エリアB・D）出土遺物実測図	23

表 目 次

第1表 土器観察表.....	25
第2表 石製品観察表.....	28
第3表 金属製品観察表.....	28

写 真 図 版 目 次

図版1 A) B地区第2テラス西側(エリアC)全景 (北西より)	B) B地区第2テラス西側(エリアC)全景 (南東から)
B) B地区第2テラス西側(エリアC)金属 製品出土状況(南より)	
図版2 A) 中寺庵寺跡全景(南東より)	図版9 A) B地区第2テラスSD06全景(西から)
B) B地区第1テラスより大川山を望む(北 西より)	B) B地区第2テラスSD06全景(東から)
図版3 B地区第1テラス礫石建物跡南西半検出状況 (南より)	C) B地区第2テラスエリアC西壁上層断面 (北東から)
図版4 A) B地区第1テラス礫石建物跡南西半石 群検出状況(南より)	図版10 A) B地区第2テラスSB05-SP05土層断面 (東から)
B) B地区第1テラスSD05全景(北より)	B) B地区第2テラスSB06-SP06上層断面 (東から)
C) B地区第1テラスSD05全景(南より)	C) B地区第2テラスSB07-SP06土層断面 (東から)
図版5 A) B地区第1テラス礫石建物跡から西部 分検出状況(東より)	D) B地区第1・第2テラス間斜面西側(エ リアC北) 検出状況(南から)
B) B地区第1テラス礫石建物跡から西部 分検出状況(南より)	E) B地区第2テラス西側(エリアC) 報文 番号18出土状況(南から)
C) B地区第1テラス礫石建物跡から西の 岩盤削平部分検出状況(南西より)	図版11 A) B地区第1テラス、第1・第2テラス間 西側斜面(エリアC北) 出土遺物(外面)
図版6 A) B地区第1テラス広場状遺構北半検出 状況(東より)	B) B地区第1テラス、第1・第2テラス間 西側斜面(エリアC北) 出土遺物(内面)
B) B地区第1テラス広場状遺構北半検出 状況(西より)	図版12 A) B地区第2テラス西側(エリアC) 出土 遺物(外面)
C) B地区第1テラス広場状遺構柱穴剥 張部分検出状況(東より)	B) B地区第2テラス西側(エリアC) 出土 遺物(内面)
D) B地区第1テラス広場状遺構柱穴土層 断面(北より)	図版13 A) B地区第1・第2テラス間東側斜面(エ リアD)、第2テラス東側(エリアB・D) 出土遺物(外面)
E) B地区第1テラス広場状遺構柱穴土層 断面(西より)	B) B地区第1・第2テラス間東側斜面(エ リアD)、第2テラス東側(エリアB・D) 出土遺物(内面)
図版7 A) B地区第2テラス東側(エリアB・D) 全景(北から)	図版14 A) B地区第2テラス西側(エリアC) 金属 製品出土状況(北より)
B) B地区第2テラス東側(エリアB) 北壁 a-a' 土層断面(南東から)	B) 金属製品X線写真
図版8 A) B地区第2テラス西側(エリアC) 全景 (北西から)	図版15 A) 金属製品蛍光X線試料測定点(内面) B) 金属製品蛍光X線試料測定点(外面)

1. 立地と環境

まんのう町は香川県仲多度郡南部の3町（琴南町、満濃町、仲南町）が、平成18年3月20日に合併して誕生した町である。香川県中部（中讃地方）に位置し、東は綾川町・高松市、西は三豊市、北は丸亀市・善通寺市・琴平町に接している。町の面積は194.33km²である。町の南部及び南西部には、標高1,000mを超える竜王山（1059.9m）、大川山（1042.9m）を主峰とする讃岐山脈が連なり、その麓を県下で唯一の一級河川土器川が北流する。

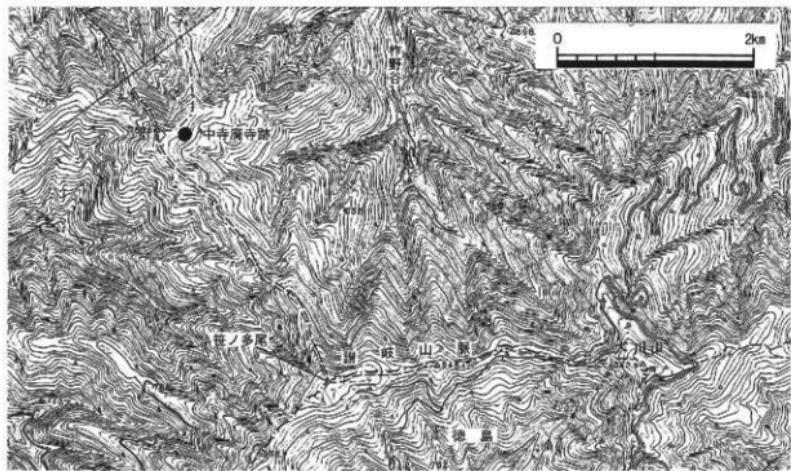
中寺廃寺跡は、香川県（讃岐国）と徳島県（阿波国）を分かつ讃岐山脈第2の主峰、大川山の西北西約2.5km、標高約700mの山間部に立地する。大川山山頂やその登山道からは、日本最大の灌溉用溜池である満濃池をはじめとする溜池群が潤す讃岐平野西半部を眼下に一望でき、土器川・明神川を遡り、讃岐山脈の分水嶺となる三頭峠まで登り詰めると、切り立つように急峻な眼下に、東に向けて滔々と流れる吉野川を臨み、対岸には剣山を擁する四国山地の山並が続く。中寺廃寺跡は、まさに讃岐・阿波国境近くの讃岐国側に立地している。

中寺廃寺跡は、まんのう町の中でも、旧琴南町と旧満濃町・旧仲南町が接する山の稜線の、旧琴南町側に分布する3つの平場群の総称である。すなわち、南東南に開いた谷を囲む西のA地区、東のB地区、南のC地区の3つの平場群である。周囲の視界は尾根により隔たれているため望見することはできないが、南東方向への視界は開けており、古くから信仰されてきた大川山を望むことができる。

現在、徳島県美馬市から三頭トンネルを経由してまんのう町に入ることができる。こうした国境越えは、交通が至便となった近年の現象ではない。かつての三頭峠は、阿波方面からの金比羅参りの人々や、畑作地域の徳島県三好・美馬地域で飼育した役牛を、香川の水田地帯に貸し出す「借耕牛」が往還する峠道であった。つまり、地理的には香川県の中央最奥に位置するまんのう町は、古くから阿波と讃岐を結ぶ交通の要衝であった。

中寺廃寺の存在もこうした環境を抜きにして語ることはできない。

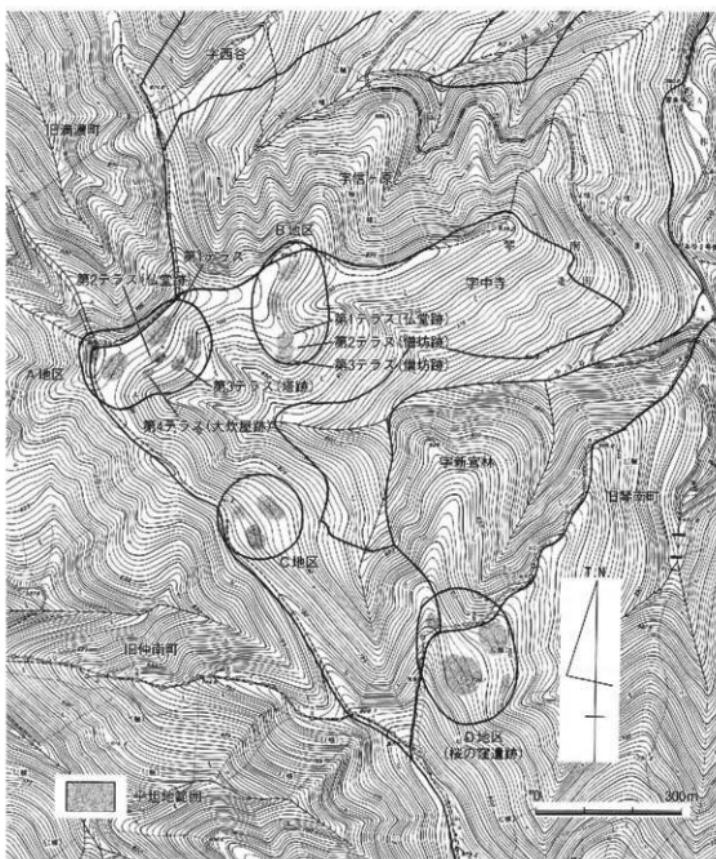
なお、平成20年3月に国指定史跡となった。



第1図 遺跡位置図



平坦地分布状況（南東より）



第2図 平坦地分布図

2. 調査の経緯と経過

(1) 調査に至る経緯

近年、調査地付近に「中寺」「信ヶ原」「鐘が窓」「松地谷」といった寺院に関する地名が存在すること、寛政11（1799）年に記された『諸岐廻遊記』中に「中寺」の表記があること、近隣集落には大川七坊と呼ばれる寺院が山中に存在したという伝承が残っていることから寺院の存在が示唆されてきた。しかし、寺院の詳細が記された文献は未確認であり、中寺は長らく幻の寺院であった。

昭和56年に中寺廃寺跡付近の分布調査を実施し、現在のA地区（第2図）付近において数箇所の平坦地を発見した。

昭和59年にはボーリング棒による調査を実施し、A地区第2テラスで礎石を確認した。またA地区第3テラスにおいては試掘調査により塔跡を確認した。塔心礎石の下部からは地鎮・鎮壇具と想定される10世紀前半の遺物が出土し、10世紀前半に塔が建立されたことを確認した。

平成15年度は宇中寺（第2図）全城の詳細分布調査を行い、約1,000mの範囲に遺跡が展開していることが判明し、大きく4つの地区に分け、それぞれをA～D地区とした。

平成16年度から中寺廃寺跡調査・整備委員会を組織し、長期計画に基づき本格的な調査を実施している。平成16年度はA地区第2・第3テラスにおいて発掘調査を実施した。その結果、仏堂跡・塔跡を確認した。この仏堂と塔は計画的に配設された中枢伽藍であり、A地区は中寺の中心的な地区であったと考えている。また、文献調査から19世紀前半には寺がすでに名称不明の状態であり、現在のD地区の位置に寺跡があると伝承されていたことが判明した。

平成17年度はB地区（第2図）において発掘調査を実施した。その結果、仏堂跡・僧坊跡を確認した。僧坊跡より西播磨産須恵器多口瓶片、僧坊跡に伴う排水溝より越州窯系青磁碗片が出土したことから、中寺はこれらの貴重品を取り寄せる力のある有力な寺院であったと考えている。

平成18年度はC地区（第2図）において発掘調査を実施した。その結果、石組造構を確認した。石組造構は平安時代の石塔であると思われ、平安時代に記された仏教行事に関する史料『三宝絵詞』に、平安時代中頃には石を積んで石塔とする行為が一般の民衆に広がっていたことが記されていることから、祭祀的な意味合いの強い地区であると考えている。

平成19年度はA地区第1テラスにおいて発掘調査を実施した。その結果、掘立柱建物跡1棟を確認した。この掘立柱建物跡は竈の痕跡があること、また建物内から食器や調理具が出土したことなどから火炊屋跡と考えている。平成20年3月、国指定史跡となった。

(2) 調査の経過

本年度の現地作業は4月9日から12月10日までB地区第1テラス礎石建物跡の南西半から西にかけての範囲（前年度からの継続）、広場状遺構と広場状遺構から東にかけての斜面の北半、第

2 テラス西半の発掘調査を実施した。

整理作業は発掘調査と並行して行い、発掘調査終了後には報告書編集作業を行った。

(3) 周知と活用

中寺庵寺跡の周知と活用を図るため、現地見学、講演会、資料展示を実施した。また琴南ふるさと資料館にて常設展示を行っている。

4月23日 一般希望者現地見学 8名

5月13日 一般希望者現地見学 4名

5月18日 まんのう町文化財保護協会総会にて京都大学大学院教授上原真人氏講演「中寺庵寺について」 150名

5月25日 仲善シルバー人材センター現地見学 27名

7月6日 まんのう町女性大学にて講演 200名

7月27日 一般希望者現地見学 15名

8月2日 しみじみふるさと体験会現地見学 9名

8月4日 香川県高等学校歴史公研会歴史部会現地・琴南ふるさと資料館見学 4名

11月1・2日 琴南地区文化祭にて琴南ふるさと資料館開放

11月22・23日 まんのう町文化祭にて展示

12月3~12日 まんのう町役場ロビーにて速報展

12月5日 香川県自治振興課琴南ふるさと資料館見学 20名



5月18日



7月6日



11月22・23日

3. 調査の成果

(1) 遺構

本年度の発掘調査はB地区第1・第2テラス（第3図）において実施した。

B地区は中寺庵守跡の北東部に位置し、第1・第2テラスは南西方向へ突出した小支尾根の先端付近に展開する。テラスの周囲は概ね急斜面であるが、第1テラスの北東部と北西部は緩やかな尾根が続いている。第1・第2テラス間の比高差は約3mである。

第1テラスは礎石建物跡を検出した西半と広場状遺構の平坦な東半からなり、西半の調査では礎石据付掘方跡、溝跡（SD05）を検出した。また、広場状遺構部分と広場状遺構から東側斜面を掘削した結果、柱穴跡を検出した。

第2テラスでは平成17年度調査したエリアAの西側とエリアBの北側を掘削し、掘立柱建物跡、溝跡、柱穴跡を検出した。

①B地区第1テラス

第1テラス（第3図）は東方向へ突出した尾根上に位置する標高約689m、面積約300m²の平坦地である。本年度は平成17年度に未調査であった礎石建物跡に伴う土壇の南北半、土壇全体の4分の1と礎石建物跡から西へ17m、E-E'から南へ2mの範囲を平成17年度と同じく地山、盛土直上面まで掘削し、礎石据付掘方1基、礎石建物に伴う溝1条を検出した。

また、広場状遺構と東側斜面のE-E'から北へ2m、東へ19mの範囲とE-E''から南へ2m、平成17年度掘削箇所からB-B'までの範囲を地山、盛土直上面まで掘削し、柱穴1基を検出した。

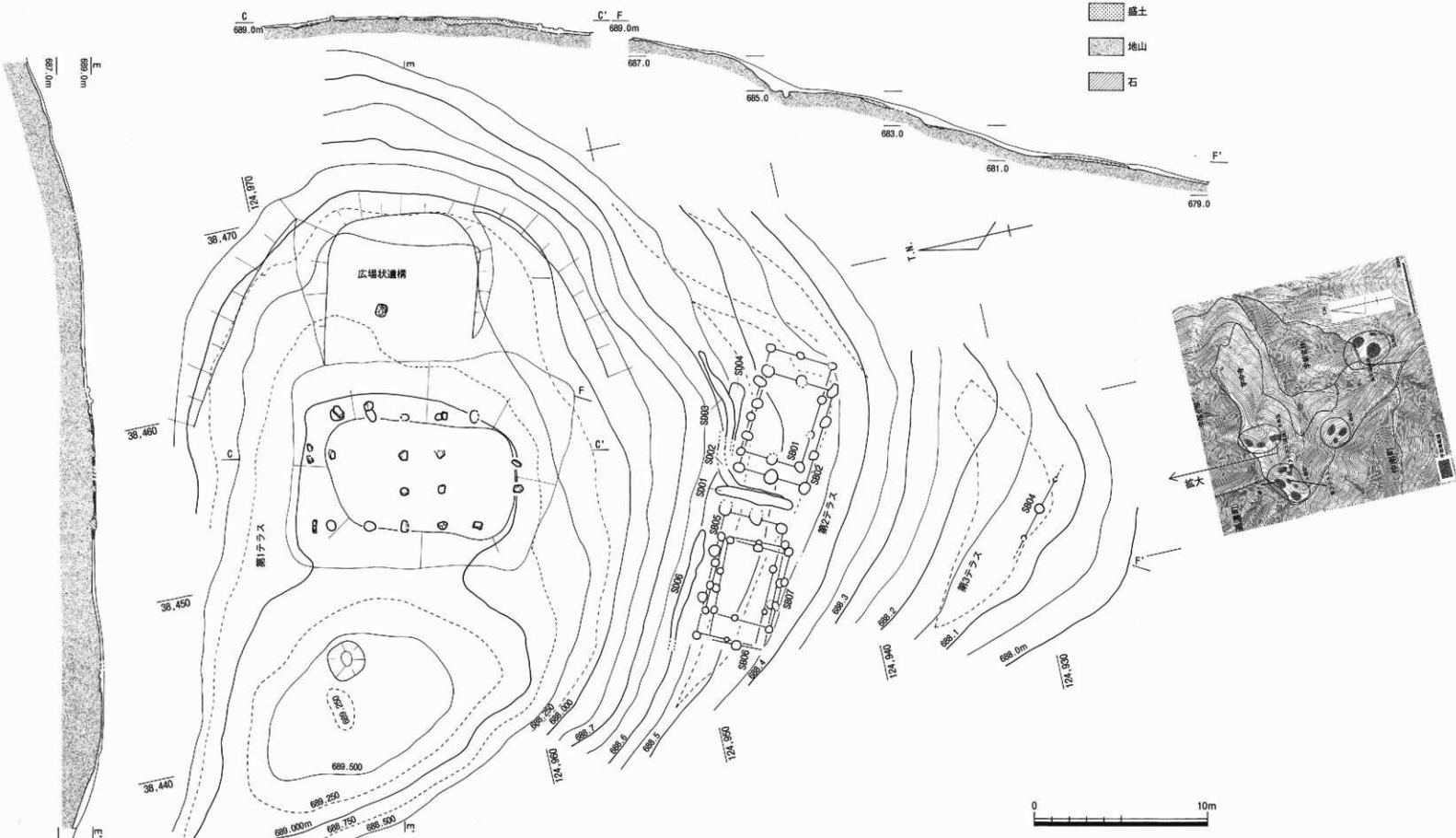
礎石建物跡

今年度の発掘調査では、平成17年度の調査部分に継続する礎石建物跡を伴う土壇と礎石据付掘方1基を検出した（第4図）。土壇の南辺では礎石建物跡の東西軸と平行で、直列状に置かれた2石から成る石列を検出した。また石列から南に向かい急な落ち込みが南北トレンチから西へ2.8m×南北2.0mの範囲に広がり、その中に崩落したような状態の礎石大の石を含む石群を検出した。

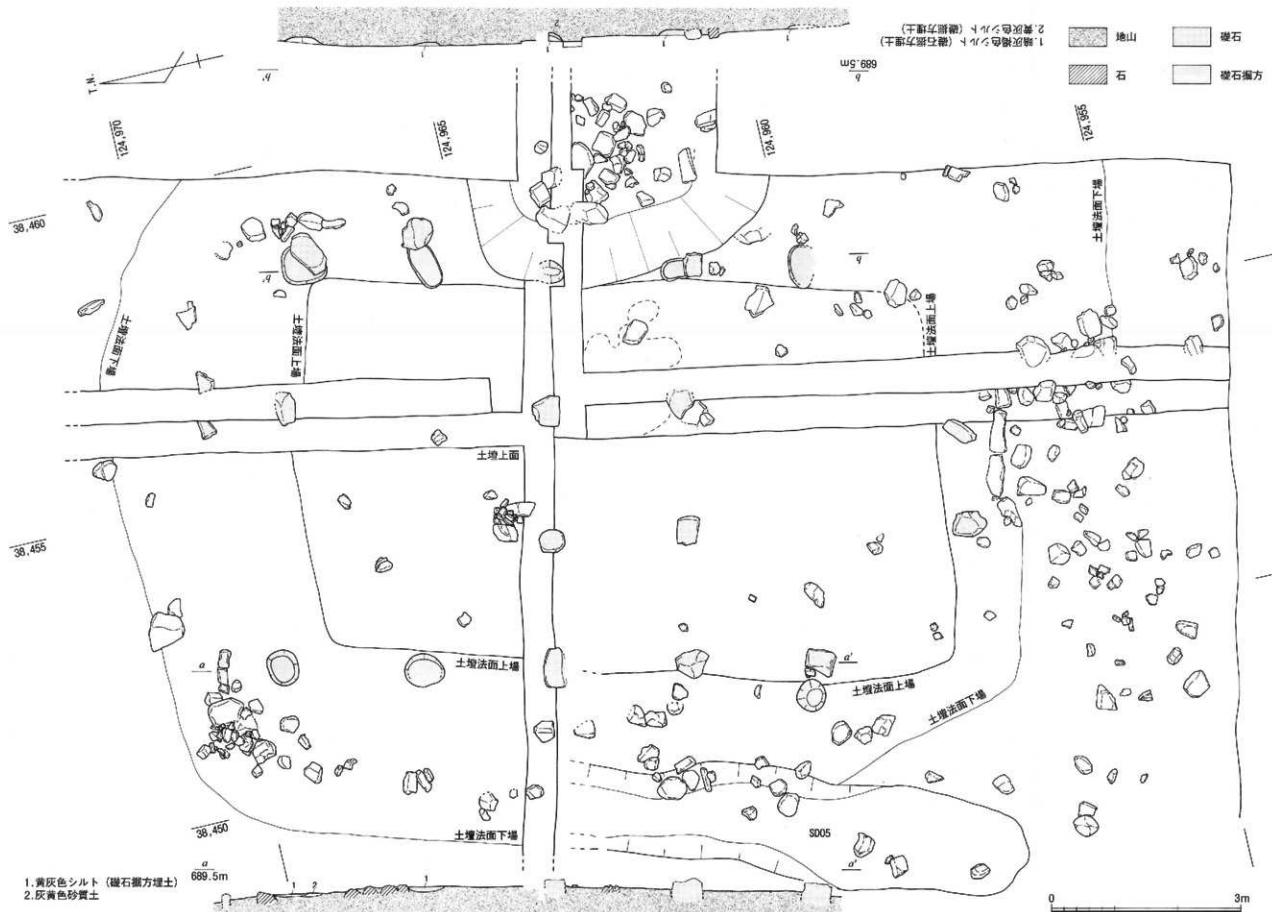
SD05

礎石建物跡の西では西辺と平行する溝を検出した。溝は幅約1.6m、深さ約0.05m、検出長約7mを測る。南へ行くにつれ浅くなり南端では高低差がなくなる。

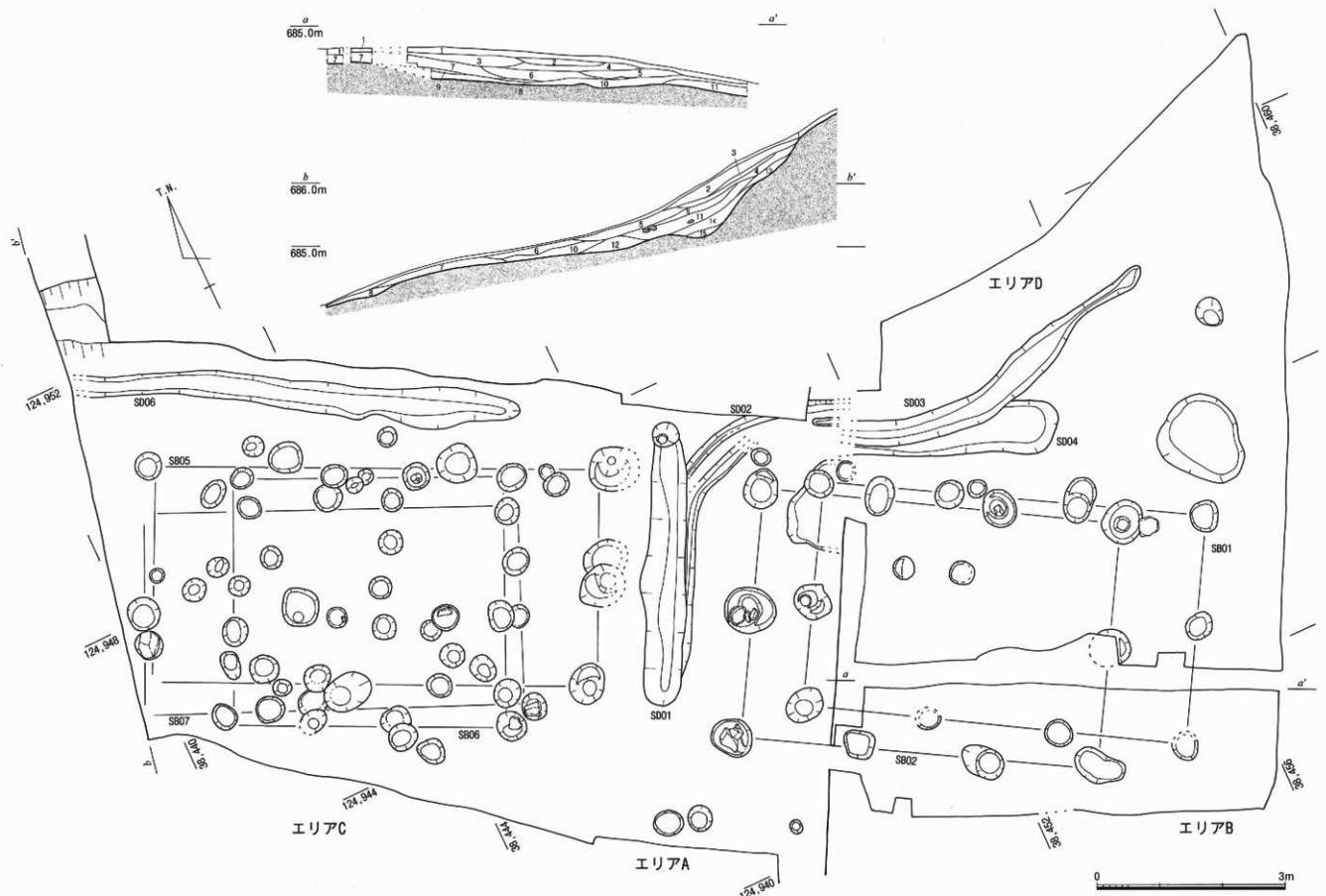
溝の南辺から西では腐植土直下に地山である岩盤が広がるが、溝から西へ約2mの幅で、突出した岩盤を削り、整地したような痕跡が認められた。



第3図 B地区第1～第3テラス平・断面図



第4図 B地区第1テラス平・断面図



a-a'

1. 黒褐色土
2. 深灰色砂質土 (小石・礫含む)
3. 黒褐色砂質土 (粒径1.5~2.5cmの地土・岩混0.1~0.3mの岩)
4. 黒褐色シルト (粒径0.5~2.5cmの炭少し含む)
5. 明黄色砂質土 (黒色シルト多く含む、被覆し硬くしまる)
6. 黒褐色シルト (粒径0.5~0.5cmの岩含む、下部下面が暗黒化)
7. 深灰色砂質土 (粒径1.5~2.0cmの白色物多く含む)
8. 明黄色砂質土 (頂上部にFeが沈着し褐色化)
9. 明黄色粘土土
10. 深灰色粘土土
11. 深黄色シルト

b-b'

1. 黒褐色土
2. にじみ青褐色砂質土 (小石・礫含む)
3. 黒褐色砂質土 (小石・礫含む)
4. 明黄色砂質土 (小石・礫含む)
5. 深灰色砂質土 (石墨多く含む)
6. 黒色砂質土 (しまり悪い)
7. 黒褐色砂質土 (石多く含む・しまり悪い)
8. 明黄色砂質土 (石多く含む・しまり悪い)
9. 明黄色砂質土 (植土少しねむ、層含む)
10. 明黄色砂質土 (地土・炭多く含む)
11. 青色砂質土 (石多く含む、黄含む)
12. 明黄色砂質土 (石・炭含む)
13. 明黄色砂質土 (石・炭含む)
14. 明黄色砂質土 (炭含む、白雲母多く含む、軟性あり、13層より黄色が強い)
15. 明黄色砂質土 (石・炭含む)

第5図 B地区第2テラス平・断面図

広場状遺構

広場状遺構（第3図）では東側中央部のやや崖んだ位置で柱穴1基を検出した。柱穴は西半が歪な円形、東半が隅丸方形を呈し、1辺の長さ1.4m、深さ0.4mで柱痕が認められる。時期は、柱穴跡から遺物が出土していないため不明である。掘立柱建物の可能性を考え、礎石建物跡中央から向かって南の対称となる位置を掘削したが遺構は確認できなかった。

②B地区第2テラス

第2テラス（第5図）は第1テラスから南に下った場所に位置し標高約686m、面積約60m²の平坦地である。山側の第1テラスと谷側の第3テラスの中間に位置する。本年度は平成17年度調査したエリアAの西側（エリアC）とエリアBの北側（エリアD）を地山、盛土直上面まで掘削し、平成17年度に一部検出していたSB01、SB02を含む掘立柱建物跡5棟、SD01・02を含む溝5条、掘立柱建物を構成する柱穴を含めて柱穴63基を検出した。エリアCでの柱穴検出密度は高い。エリアCの平坦部分西半とエリアDの平坦部分の地山、盛土直上面は、エリアA・Bと同じく焼土・炭化物を多く含む焼上層（琴南町内遺跡発掘調査報告書 第2集 中寺廃寺跡 平成17年度 第8回 k-k' 断面図12・13層）が被覆していた。

SB01

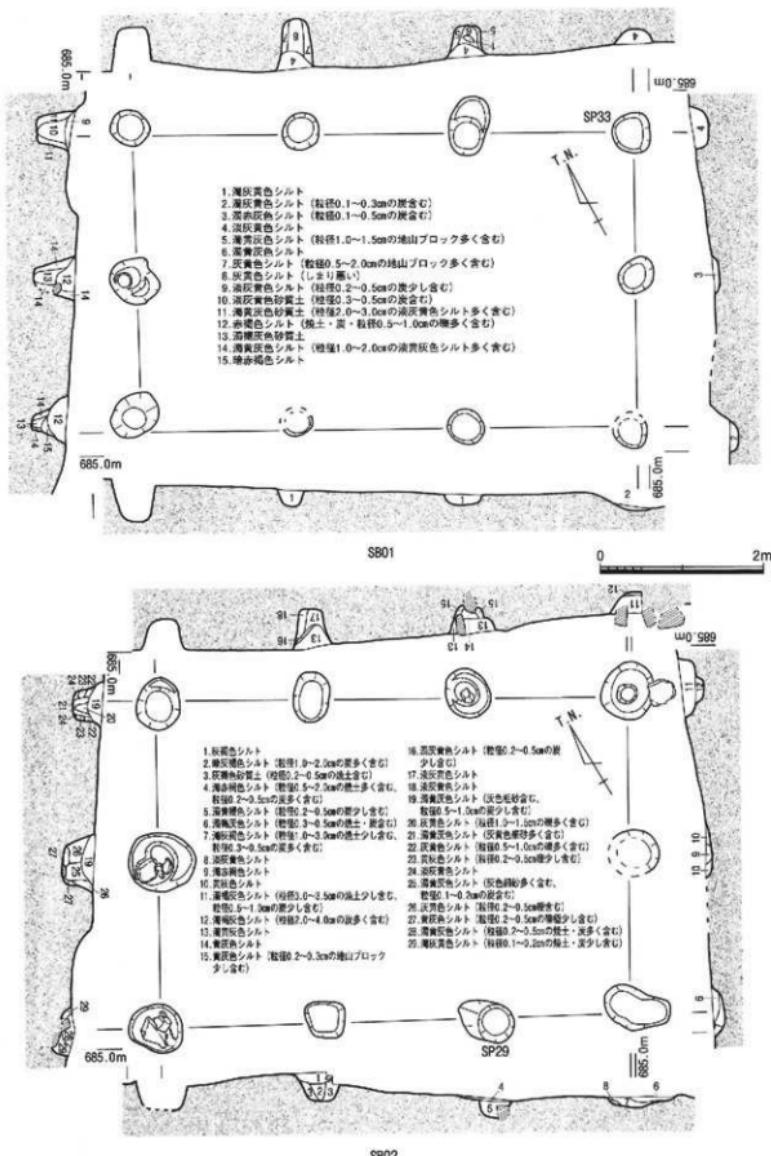
SB01（第6図）は標高約684.47mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間2間×桁行3間で、3.62×6.20m、床面積約22.41m²を測る。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径32～60cm、検出面から深さ6～66cmで梁間西列と桁行北列はしっかりととした掘方を持つ。5基の柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径10～20cmを測る。建物は東西棟で北東一南西方向（短軸）は真北から28.5° 東を取る。西半の掘立柱建物とは方位が異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から須恵器・土師器・土師質土器が出土している。その中でSP33から出土した須恵器壺・土師器壺からSB01の時期は10世紀前半と考えられる。

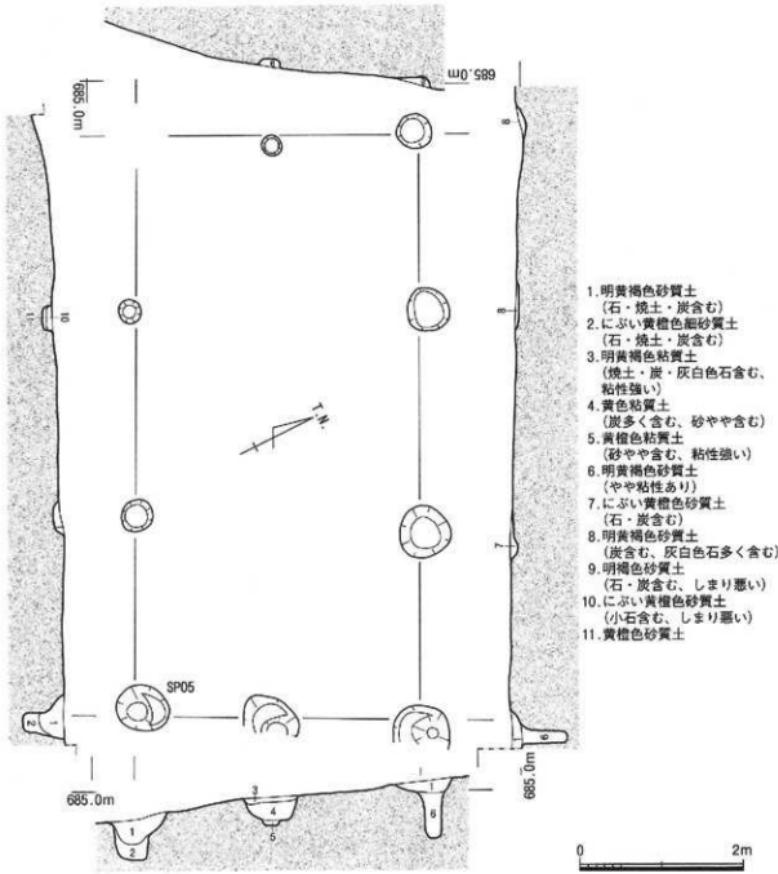
SB02

SB02（第6図）は標高約684.60mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間2間×桁行3間で、3.90×5.81m、床面積約22.66m²を測る。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径46～82cm、検出面から深さ7～50cmで梁間西列と桁行北列はしっかりととした掘方を持つ。3基の柱穴に柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径13～22cmを測る。3基の柱穴が長軸9～22cmの石を配した根石を持つ。建物は東西棟で北東一南西方向（短軸）は真北から30.5° 東を取る。西半の掘立柱建物とは方位が若干異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から須恵器・土師器・土師質土器が出土している。その中で



第6図 B地区第2テラス SB01・02平・断面図



第7図 B地区第2テラス SB05平・断面図

SP29から出土した黒色土器碗・土師器碗からSB02の時期は9世紀末～10世紀初頭と考えられる。

SB05

SB05（第7図）は標高約684.86mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間2間×桁行3間で、3.53×7.16m、床面積約25.27m²を測る。南西隅1基を欠く。構成する柱穴は正なものもあるが概ね円形を呈し、直径24～71cm、検出面から深さ3～73cmで梁間東列のみしっかりととした掘方を持つ。北東隅の柱穴には柱痕が認められ、平面形態が円形で、直径20cmを測る。建物は

東西棟で北東—南西方向（短軸）は真北から26.5° 東を取る。

SB05はSB06、SB07とはほぼ同位置で検出したが柱穴の重複がみられず、先後関係については不明である。盛土を掘り込んでいることから平坦地の造成後に建てられたと考えられる。SB01、SB02とは方位が異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から須恵器・土師器が出土している。その中でSP05から出土した須恵器壺・土師器壺からSB05の時期は10世紀前半と考えられる。

SB06

SB06（第8図）は標高約684.74mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間2間×桁行3間で、3.99×4.37m、床面積約17.11m²を測る。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径33~50cm、検出面から深さ2~19cmである。南東隅の柱穴は長径20cmの根石を持つ。建物は東西棟で北東—南西方向（短軸）は真北から26.5° 東を取る。

SB06はSB05、SB07とはほぼ同位置で検出したが、SB07を構成する柱穴を切っている。SB05とは柱穴の重複がみられず、先後関係については不明である。盛土を掘り込んでいることから平坦地の造成後に建てられたと考えられる。SB01、SB02とは方位が異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から土師器・土師質土器が出土している。その中でSP06から出土した土師器壺からSB06の時期は9世紀末~10世紀初頭と考えられる。

SB07

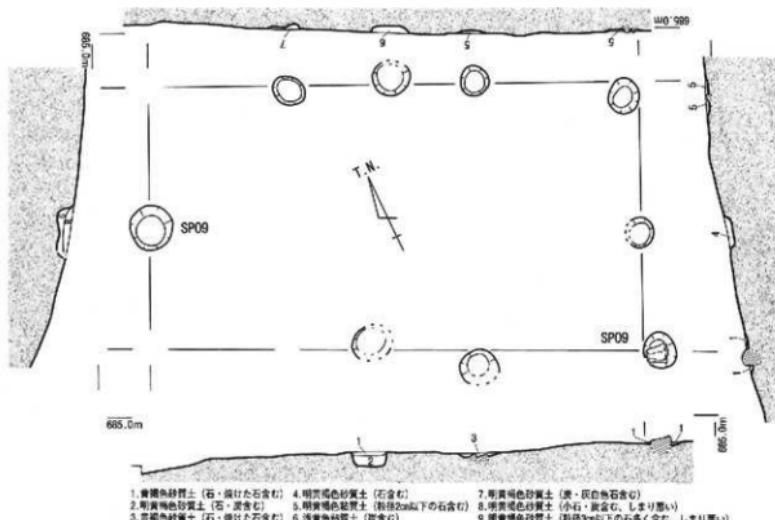
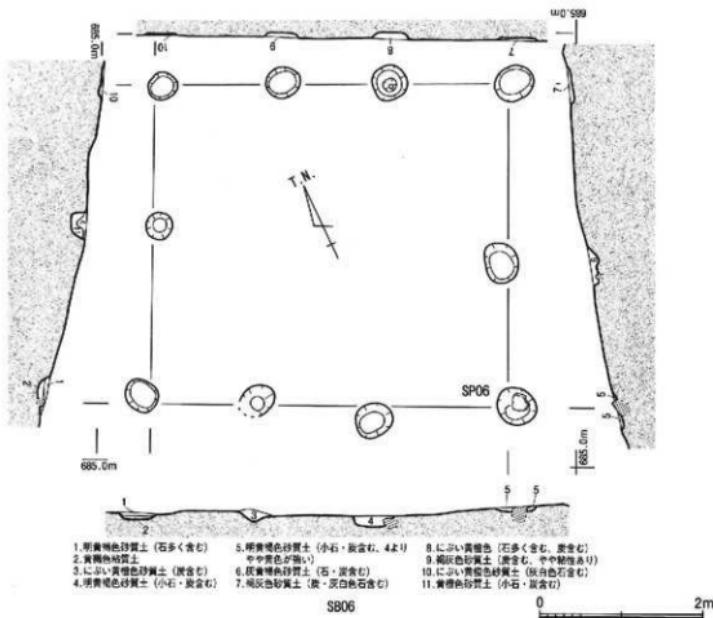
SB07（第8図）は標高約684.84mで検出した掘立柱建物跡である。規模は、梁間2間×桁行4間で、3.30×6.06m、床面積約20.00m²を測る。梁間西列2基を欠く。構成する柱穴は歪なものもあるが概ね円形を呈し、直径34~63cm、検出面から深さ4~20cmである。南東隅の柱穴は長径30cmの根石を持つ。建物は東西棟で北東—南西方向（短軸）は真北から24.5° 東を取る。

SB07はSB05、SB06とはほぼ同位置で検出したが、SB06に切られている。SB05は柱穴の重複がみられず、先後関係については不明である。盛土を掘り込んでいることから平坦地の造成後に建てられたと考えられる。SB01、SB02とは方位が異なり、地形に制約された向きに建てられたと考えられる。

掘立柱建物跡を構成する柱穴から須恵器・土師器が出土している。その中でSP09から出土した土師器皿からSB07の時期は9世紀末と考えられる。

SD06

SD06は（第5図）は標高約685.28mで、第2テラス北側で検出した溝である。溝は幅約48cm、深さ約13cm、検出長約7.20mを測る。SB05~07に伴う溝と考えられ、第1テラスからの雨水の排水溝と考えられる。第2テラス東側（エリアD、平成18年度調査）でも掘立柱建物に伴う排水



第8図 B地区第2テラス SB06・07平・断面図

構を検出しており、第2テラス西側（エリアC）でも同様に造られていることが分かる。

溝内から須恵器・土師器が出土しており、時期は須恵器坏・土師器坏から10世紀前半と考えられる。

(2) 遺物

①B地区第1テラス出土遺物

B地区第1テラスの土層序は、遺構面上位に第1層腐葉土、第2層流土と2層に分けられ、遺構面直上の流土から多量に遺物が出土している。

1～29（第9図）はB地区第1テラスから出土した遺物で、1～6は腐食上層（第1層）から出土した遺物、7～29は流土層（第2層）から出土した遺物である。

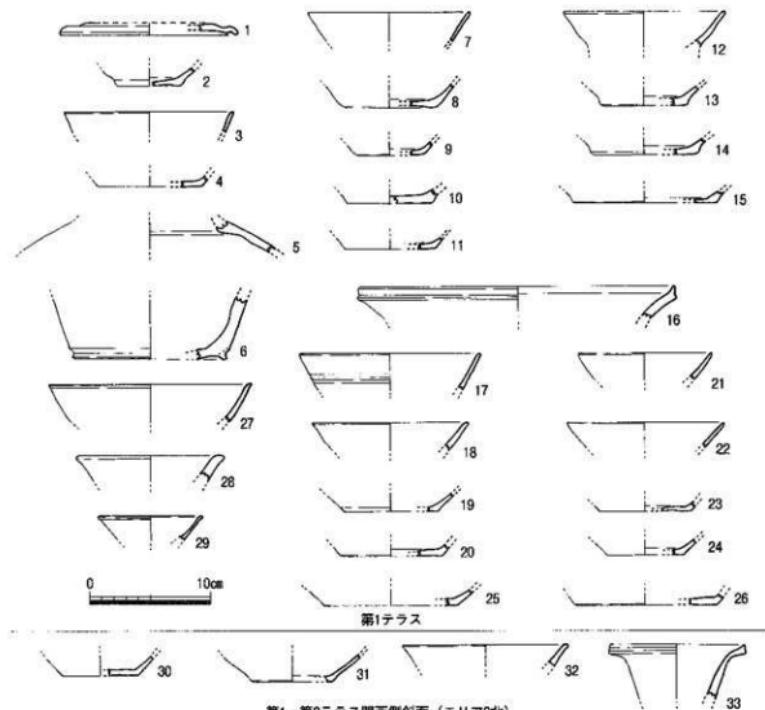
1は須恵器坏蓋で、口縁端部を下方に丸く屈曲させ、内面には沈線状の窪みを持つ。天井部外側はヘラ切りのち未調整。2は土師器坏で、底部はヘラ切りされた平底で、体部は外上方に延びる。3・4は須恵器坏で、底部はヘラ切りされた平底で、体部は直線的に外上方に延び、口縁部はやや外反させる。5は須恵器壺で、肩部の破片である。6は須恵器壺の底部で、底部と体部の境に外方に踏ん張る方形の高台が付く。7～11は土師器坏で、底部はヘラ切りされた平底を呈し、体部は直線的に外上方に延びる。12～14は土師器坏で、底部がやや突出した円盤状高台を呈するものである。15は土師器皿である。底部はヘラ切りされた平底で、体部は外上方に延びる。16は土師質土鍋で、外反気味の頸部から口縁端部を上方に摘み上げ、外面に沈線状の窪みを持つ。17～24は須恵器坏で、ヘラ切りされた平底の底部から体部は内湾気味に外上方に延びるものと直線的に外上方に延びるものがある。25・26は須恵器皿で、ヘラ切りされた底部から体部は直線的に外上方に延びる。27は須恵器碗で、内湾気味の体部から口縁端部を外方に摘み出し、口唇部をシャープに終わらせる。28は須恵器壺の口縁で、口縁端部をやや外反させる。29は縁軸土器で、体部は直線的に外上方に延び、端部を外反させる。端部内面には僅かに沈線を持つ。体部内外面に黄味がかかった釉が薄くかかるおり、胎土は精良である。京都系の縁軸陶器の耳皿と考えられる。

第1テラスから出土した遺物を見ると土師器坏と須恵器坏がかなり多量に出土し、若干の須恵器・土師器の皿、壺、土師質土器が出土している。時期は土師器坏・須恵器坏から10世紀前半と考えられ、焼成の違いはあるが、ほぼ同形態を呈する点でもこの時期の特徴を表している。また1点ではあるが、報文番号1須恵器坏蓋が出土しており、第1テラスの遺構の時期が9世紀前半まで遡る可能性がある。

②B地区第1・第2テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物

30～33（第9図）はB地区第1テラスと第2テラス間の西側斜面（エリアCの北側斜面）から出土した遺物で、全て第1層腐葉土から出土したものである。

30・31は須恵器坏で、ヘラ切りされた平底の底部から、体部は直線的に外上方に延びる。32は



第9図 B地区第1テラス、第1・第2テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物実測図

須恵器皿で、口径が13.5cmと小ぶりの皿である。33は西播磨産の須恵器壺の口縁で直線的に外上方に延びる頸部から口縁部をほぼ水平に外方に屈曲させ、端部を上面に擫み上げる。端部外面に僅かに1条の沈線が施されている。内外面に透明釉がかかり、胎土は精良、焼成は良好。

B地区第1・第2テラス間西側斜面（エリアC北）から出土した遺物を見るとほぼ第1テラスから出土した遺物と同じで、同時期と考えられる。

③B地区第2テラス西側（エリアC）出土遺物

B地区第2テラス西側（エリアC）の土層序は、人別すると造構面上位に第1層腐葉土の上層、第6・7・10層流土の中層、第12層焼土の下層と3層に分けられ、遺物のほとんどは中・下層から出土している。

34~86（第10図）はB地区第2テラス西側（エリアC）から出土した遺物で、34~36は腐葉土層（上

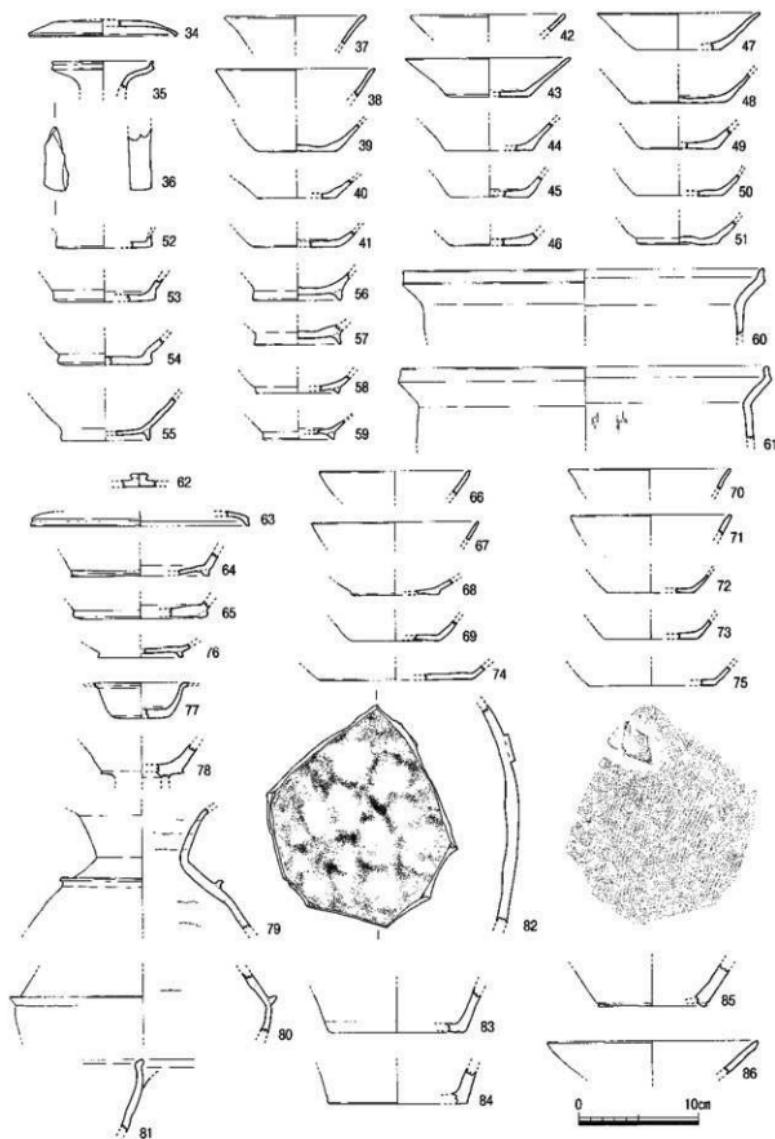
層）から出土した遺物、37～85は流土層（中層）から出土した遺物、86は下層の焼上層から出土した遺物である。

34は須恵器蓋で、天井部がほぼ水平で、口縁端部にかけて緩やかに屈曲し、端部外面に僅かに沈線を持つように短く下方に摘み出す。35は西播磨産須恵器多口瓶の小型の壺口縁部で、口径から肩部に付く壺の口縁と考えられる。36は安山岩製の砥石と考えられる。37～51は土師器坏で、ヘラ切りされた底部から、体部は直線的に外上方に延びる。52～54は土師器円盤状高台椀で、底部は1cm程度突出した形状を呈する。底部はヘラ切りされた平底から体部は直線的に外上方に延びる。55～59は土師器椀である。55はヘラ切りされた底部から体部が直線的に外上方に延びる壺部を呈し、底部と体部の境に断面長方形の高台が付く。58は底部と体部の境が緩やかに屈曲するものである。60・61は土師質土鍋で、長胴の体部から口縁部が「く」の字に屈曲し、口縁部を上方に摘み上げる。62・63は須恵器蓋で、天井部に扁平のつまみが付く。口縁部は外反気味に下方に屈曲する。64・65は須恵器高台付坏で、底部と体部の境に断面方形の高台と粘土紐状の高台が付く。66～73は須恵器坏で、ヘラ切りされた平底の底部から体部は直線的に外上方に延びる。形態は土師器坏とは同形態で、相違点は焼成の違いのみである。74・75は須恵器皿で、ヘラ切りされた平底の底部から体部は直線的に外上方に延びる。76は須恵器椀である。77は須恵器坏で、平底の底部からやや体部は内湾気味に上方に延び、口縁部をほぼ水平に外方に屈曲させる。78は須恵器製の製品で、器種は不明である。底部に高台状のものが付くようで、底部と体部の境にシャープな突帯を持つ。体部は外上方に延び、やや外反する。79・80は西播磨産の須恵器蓋で、79は緩やかに内湾する肩部に断面長方形の突帯が付く。頸部は直線的に外上方に延び、口縁部でやや外反させる。体部内面に粘土紐の接合痕が確認できる。80は肩部下位に断面三角形状の突帯が付く。79に比べるとやや退化したもので時期差があると思われる。81は須恵器鉢で、やや内湾気味の口縁部から端部は外方に摘み出す。口縁部に注ぎ口が確認できる。82は須恵器壺の体部を転用した硯で、内面に無文の當て具痕、外面に平行叩き痕が確認できる。83～85は須恵器壺で、83・84は平底で、85は平底の底部に断面方形の高台が付くものである。86は土師器坏で、体部から口縁部にかけて直線状に延びる。

第2テラスから出土した遺物を見ると土師器坏と須恵器坏がかなり多量に出土し、若干の須恵器皿、壺、土師質土器が出土している。時期は土師器坏、須恵器坏から10世紀前半と考えられ、焼成の違いはあるが、ほぼ同形態を呈する点でもこの時期の特徴を表している。また1点、須恵器坏蓋・高台付き坏が出土しており、第2テラスの造構の時期が8世紀末～9世紀前半まで遡る可能性がある。また、55の土師器椀は9世紀後半のもので、B地区第2テラスが連続と営まれていた可能性も考えられる。

④B地区第1・第2テラス間東側斜面（エリアD）出土遺物

87～89（第11図）はB地区第1・第2テラス間東側斜面（エリアD）から出土した遺物である。87は須恵器坏で、体部は直線的に外上方に延びる。88は土師器坏で、ヘラ切りされた平底の底



第10図 B地区第2テラス西側(エリアC)出土遺物実測図

部から体部は直線的に外上方に延びる。89は須恵器壺で直線的に外上方に延びる頸部から口縁端部は外方にシャープに摘み出す。

出土遺物から10世紀前半と考えられる。

⑥B地区第2テラス東側（エリアB・D）出土遺物

90～109（第11図）はB地区第2テラス東側（エリアB・D）から出土した遺物である。

B地区第2テラス東側（エリアB・D）の土層序は、第1層（平成18年度時の土層）腐葉土、第3層流土、第12・13層焼土に分けられ、遺物のほとんどは焼土層のから出土している。

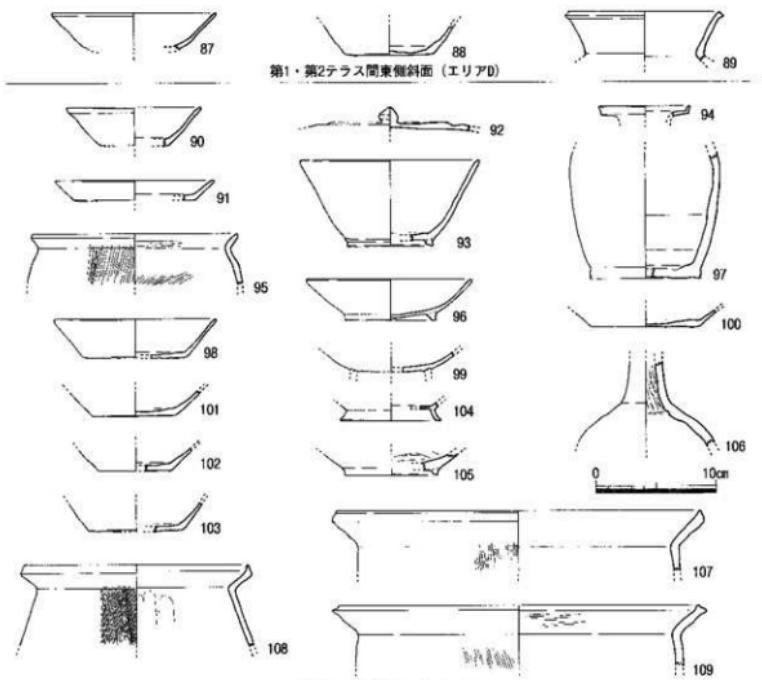
90・91は表土（腐葉土）から出土、92～95は流土から出土、96・97は流上下から出土、98・99は焼土層から出土、100～107は焼土下から出土、108・109は地山直上から出土した遺物である。これらの遺物は平成18年度の調査時に出土した遺物である。

90は須恵器壺で、やや内湾気味の体部から、口縁端部はやや外反する。91は須恵器皿で、口径13.2cmと小振りの皿である。92は須恵器蓋で、ヘラ削りの痕跡が確認できる天井部外面の中央に宝珠形のつまみが付く。内面が摩滅していることから転用視として使用されていたものである。93は須恵器壺で、半底の底部から体部は直線的に外上方に延びる。底部と体部の境に断面方形の高台が付く。94は西播磨産須恵器多口瓶の小型壺の口縁部である。95は土師質甕である。体部内外面に刷毛目が施されている。96は黒色土器碗である。口径に比べると器高がかなり低く、緩やかに屈曲する底部と体部の境に断面方形の高台が付く。内面のみに炭素を吸着させた黒色土器A類碗である。97は須恵器壺で、未調整で円盤状を呈する底部から体部は内湾気味に上方に延びる。98は須恵器壺で、ヘラ切りされた底部から体部は直線的に外上方に延びる。99は灰釉皿である。胎土は精良で、内面に暗緑色の釉が付着している。100は須恵器皿である。101・102は土師器壺である。底部はヘラ切りされている。103は須恵器壺である。104は土師器碗で、半底の底部と体部の境に長く、外方向に延びる高台が付く。105は須恵器碗で、内面に板ナデの痕跡が確認できる。106は須恵器細頸壺である。内面に粘土紐の接合痕や絞り目が認められる。107は土師質上鍋で、「く」の字に屈曲する頸部から頸部は直線的に外上方に延び、口縁端部は僅かに上方に摘み上げる。108は土師質甕で、口縁端部を上方に摘み上げ、屈曲部には明瞭な稜を持つ。109は土師質上鍋で口縁端部を左右に摘み出す。

B地区第2テラス東側（エリアB・D）出土遺物から出土した遺物を見ると土師器壺と須恵器壺がかなり多量に出土し、若干の須恵器・土師器の皿、壺、土師質土器が出土している。時期は土師器壺、須恵器壺から10世紀前半と考えられる。96・104・109などは9世紀まで遡り、今年度調査時の出土遺物とは矛盾しない。

⑥B地区第2テラス西側（エリアC）出土の金属製品について

B地区第2テラス西側（エリアC）流土層から金属製品が出土した。天地約10cm、左右約12cm、厚さ1.0～1.5mmで、厚さは均一に仕上げられている。



第11図 B地区第1・第2テラス間東側斜面(エリアD)、第2テラス東側(エリアB・D)出土遺物実測図

香川県立ミュージアムでX線撮影(75KV8MA1M)した結果、部分的に(図版14-B上部、右端)にX線で黒く見える部分(透過が高い部分)が認められ、一様の金属成分ではない可能性が高くなつた。そのため、金属の成分を分析するために徳島県立博物館魚島氏に蛍光X線分析を依頼することとなつた。

蛍光X線分析は、徳島県立博物館にあるエネルギー分散型蛍光X線分析装置で行い、内面で4箇所、上部黒い部分2箇所(試料02、03)、右端部分1箇所(試料07)、ほぼ中央部分1箇所(試料01)、外面で3箇所、上部黒い部分1箇所(試料06)、左端部分1箇所(試料05)、境界部分1箇所(試料04)で分析した。分析の結果、内面上部黒く見える部分の試料02と03(銅:錫=2:1)はほぼ同じ成分で、白く見える部分(中央部分)試料01(銅:錫=約4:1)と比較すると試料02、03は錫を一定とすると銅の割合が少なく、銅が若干多いことが分かる。一方外面上部黒い部分試料06と左端黒い部分試料05はほぼ同じ成分で、白い部分試料04と比較すると銅成分が少なく、明らかに違いがあることが分かる。また、試料05の内面部分の試料07の成分は試料02、03と同じ成分である。以上のことから、黒い部分と白い部分には銅と錫と鉛の成分に差があることが分かつた。

た。また、この金属製品の成分は銅、錫、鉛、亜鉛、砒素であることが分かった。以上の結果から、

①成分が銅、錫、鉛で、亜鉛、砒素を微量に含む金属製品であること

②黒い部分と白い部分の成分は同じであること

③黒い部分と白い部分の成分の含有割合比に差があること

※この結果がX線写真的差として現れている。

④黒い部分の成分の含有割合比はほぼ同じであること

が分かり、成分の含有割合比が違うことから可能性として、鋳掛けと十分に溶融していない金属で流れが悪い結果が考えられる。また、鋳掛けと仮定すると①銅錫などに認められる隙間がないこと、②かなり薄いことから、鋳掛けは困難であることから鋳掛けの可能性は低く、流れが悪い結果と仮定すると①ほぼ中央部分の白い部分が底で、湯口の形状にもよるが周囲に成分の含有割合比の違う金属があること、②全体にかなりスグ認められることから、かなり難に造られた青銅製品で、溶融された金属も製造過程で成分の含有割合比が違ひ、更に流れが悪かった可能性（黒い部分の模様状に見える）が高いと考えられる。

銅、錫、鉛、亜鉛、砒素の成分の含有割合比から佐波理の可能性が高く、器種としては皿か加盤（蓋・鏡）と考えられる。

4.まとめ

本年度の発掘調査はB地区第1・第2テラスにおいて実施した。

第1テラスでは平成17年度に確認した仏堂跡の南西部を調査し、縁辺部を整地した土壇状の高まりと礎石を検出した。また仏堂跡の西側では溝状の遺構を検出したことで丘陵上を溝によって区画していたことを確認した。この部分は地山の一部に岩盤が露出し、溝西側では岩盤の整地も確認した。

第2テラスでは平成17・18年度に実施した調査区の西側を調査し、掘立柱建物跡を3棟検出した。規模の大小はあるものの全て2×3間で、平成17・18年度に調査を実施した東側も含めてみると溝SD01を中心として左右対称に同方向の建物が存在していたことが分かる。どちらの建物も北側に排水溝と考えられる溝を検出しており、規則性を持った建物配置であったことが分かる。

時期は出土遺物のほとんどが10世紀前半の遺物で、この時期に規模を拡大するようであるが、8世紀末～9世紀前半の遺物もかなり出土していることから、中寺廃寺跡のA地区、C地区と比較するとB地区が最も早く営まれていたことが分かる。

参考文献・引用文献

余丁祐之 1996 「木簡は語る」『歴史発掘12』講談社

成瀬正和 2002 『日本の美術 第439号 止庵院宝物の蒸材』

琴南町教育委員会 2006 『中寺廃寺跡 平成17年度』

まんのう町教育委員会 2008 『中寺廃寺跡 平成19年度』

第1表 土器観察表

番号	調査区分	調査場所	出土地点	法面(m)	法面高	残存量	土	調整		備考
								外	内	
1	9 11 須恵器・灰壺	白地区 第1テラス 路地土壠	14.6	口縁部/8	石粉細少	10Y6/1灰	N6灰	7.5YR6/6壠	7.5YR7/6壠	楓ナ子
2	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 路地土壠	5.2	底部/8	石英・雲母細少	5Y7/1灰白	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	
3	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 路地土壠	14.0	口縁部/8	石粉細少	5Y7/1灰白	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	
4	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 路地土壠	8.6	底部/2.8	石粉細少	5Y7/2灰白	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	
5	9 11 須恵器・壺	白地区 第1テラス 路地土壠	12.8	周部/1.8	石粉細少	N6灰	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	外壁上自然施付
6	9 11 須恵器・壺	白地区 第1テラス 路地土壠	13.4	底部/2.6	石粉細少	10YR7/4にぶい 黄土	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	
7	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 法土壠	7.6	口縁部/8	石英・雲母細少	10YR7/4にぶい 黄土	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	
8	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 法土壠	5.4	底部/2.8	石英・雲母細少	2.5YR5/8明赤壠	2.5YR5/8明赤壠	楓ナ子	楓ナ子	
9	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 法土壠	7.0	底部/2.8	石英・雲母細少	2.5YR6/8壠	2.5YR6/8壠	楓ナ子	楓ナ子	
10	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 法土壠	7.4	底部/2.8	石英・雲母細少	2.5YR6/8壠	2.5YR6/8壠	楓ナ子	楓ナ子	
11	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 法土壠	13.2	口縁部/8	石英・雲母細少	10YR6/6明赤壠	2.5YR5/8明赤壠	楓ナ子	楓ナ子	円錐形高台付
12	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 法土壠	7.2	底部/2.8	石英・雲母細少	2.5YR5/8壠	2.5YR5/8壠	楓ナ子	楓ナ子	円錐形高台付
13	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 法土壠	9.0	底部/2.8	石英・雲母細少	5YR6/8壠	2.5YR5/8明赤壠	楓ナ子	楓ナ子	円錐形高台付
14	9 11 土器底・灰	白地区 第1テラス 法土壠	12.0	底部/2.8	石英・雲母細少	10YR6/6明赤壠	2.5YR5/8明赤壠	楓ナ子	楓ナ子	円錐形高台付
15	9 11 土器底・壺	白地区 第1テラス 法土壠	26.0	口縁部/8	石英・雲母細少	5YR6/6壠	2.5YR6/6壠	楓ナ子	楓ナ子	
16	9 11 土器底・壺	白地区 第1テラス 法土壠	14.9	口縁部/8	石英・雲母細少	10YR6/6明赤壠	2.5YR6/6壠	楓ナ子	楓ナ子	
17	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 法土壠	12.8	口縁部/8	石英・雲母細少	10YR7/1灰白	2.5YR6/1灰	楓ナ子	楓ナ子	
18	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 法土壠	7.6	底部/2.8	石粉細少	N5灰	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	
19	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 法土壠	8.4	底部/2.8	石粉細少	10Y6/1灰	7.5Y6/1灰	楓ナ子	楓ナ子	
20	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 法土壠	11.0	口縁部/8	石粉細少	7.5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	楓ナ子	楓ナ子	
21	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 法土壠	13.0	口縁部/8	石粉細少	10Y7/1灰白	2.5Y7/1灰白	楓ナ子	楓ナ子	
22	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 法土壠	7.6	底部/2.8	石粉細少	10Y6/1灰	7.5Y6/1灰	楓ナ子	楓ナ子	
23	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 法土壠	6.4	底部/2.8	石粉細少	7.5Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	楓ナ子	楓ナ子	
24	9 11 須恵器・灰	白地区 第1テラス 法土壠	11.0	底部/2.8	石粉細少	N6灰	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	
25	9 11 須恵器・壺	白地区 第1テラス 法土壠	11.8	口縁部/8	石英・雲母細少	5Y6/1灰	7.5Y6/1灰	楓ナ子	楓ナ子	
26	9 11 須恵器・壺	白地区 第1テラス 法土壠	16.8	口縁部/8	石粉細少	7.5Y7/1灰白	5Y7/2灰白	楓ナ子	楓ナ子	
27	9 11 須恵器・壺	白地区 第1テラス 法土壠	11.7	口縁部/8	石粉細少	NS灰	N6灰	楓ナ子	楓ナ子	
28	9 11 須恵器・壺	白地区 第1テラス 法土壠	8.5	底部/2.8	石粉細少	5Y7/2灰白	5Y7/2灰白	楓ナ子	楓ナ子	全体に黒味がかった 縦付
29	9 11 縫合・耳皿	白地区 第1テラス 法土壠	6.2	底部/8	石粉細少	10Y7/1灰白	N7灰白	楓ナ子	楓ナ子	
30	9 11 須恵器・灰	白地区 第1・2階窓 法土壠	7.0	底部/2.8	石粉細少	2.5Y6/2灰白	10Y7/1灰白	楓ナ子	楓ナ子	
31	9 11 須恵器・灰	白地区 第1・2階窓 法土壠								

關文 辨認 固括 番号・番号	様式・器種	調査 地区	出土地点	法面(cm)	口径(直径) 高さ	操作量	胎土	断面			断面			備考
								外圓	内圓	N6/底	外圓	内圓	N6/底	
32 9 11	須惠器・皿	B地区 第1・2階斜面	洗土層	13.5		口縁部小片	好筋粗砂粒	7.5/71/1底白			好ナデ			
33 9 12	須惠器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	11.0		口縁部2/6	好筋粗砂粒	5/6/1底			好ナデ			西摺磨窓 外面に凹溝有
34 10 12	須惠器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	12.0		口縁部5/8	好筋粗砂粒少	N6/底	5/71/1底白		好ナデ			西摺磨窓 多口窓
35 10 12	須惠器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	11.6		口縁部5/8	好筋粗砂粒少	5/7H/5/8	5/71/1底白		好ナデ			
37 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	13.0		口縁部1/8	長石・雲母繊維少	10YR8/4/6薄青釉	10YR8/4/6薄青釉		好ナデ			
38 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	6.8		底部8/8	長石中砂少	10YR8/4/6薄青釉	10YR8/4/6薄青釉		好ナデ・へラ切			
40 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	6.4		底部6/8	長石・長石中砂少	10YR8/6/0明黄釉	10YR8/6/0明黄釉		好ナデ			
41 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	7.4		底部6/8	長石・雲母繊維少	10YR8/6/0明黄釉	10YR8/6/0明黄釉		好ナデ・へラ切			
42 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	12.6		口縁部1/8	長石中砂少、雲母繊維少	5/7H/6/8	5/71/2底黄		好ナデ			
43 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	13.5	7.0	3.2/4/8	長石・雲母繊維少	10YR8/4/6薄青釉	5/7H/6/8		好ナデ・へラ切			
44 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	6.4		底部1/8	長石・雲母繊維少	10YR8/6/0明黄釉	10YR8/6/0明黄釉		好ナデ			
45 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	6.8		底部2/8	長石・雲母繊維少	5/7H/6/8	5/71/2底黄		好ナデ・へラ切			
46 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	13.6	7.0	3.0/4/8	長石・雲母繊維少	10YR8/6/0明黄釉	10YR8/6/0明黄釉		好ナデ・へラ切			
47 10 12	土師器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	8.0		底部4/8	長石・長石中砂少	5/7H/5/8	5/71/2底黄		好ナデ・へラ切			
48 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	6.6		底部1/8	長石・雲母繊維少	7.5/7H/7/4/5/6	10YR8/4/6薄青釉		好ナデ・へラ切			
49 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	7.0		底部1/8	長石中砂少	10YR8/6/0明黄釉	10YR8/6/0明黄釉		好ナデ・へラ切			
50 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	6.8		底部3/8	長石中砂少	5/7H/6/8	5/71/1底白		好ナデ			
51 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	8.0		底部2/8	長石・雲母繊維少	2.5/7H/6/8	2.5/71/1底白		円盤状高台村			
52 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	8.4		底部2/8	長石・雲母繊維少	10YR8/4/6薄青釉	10YR8/4/6薄青釉		円盤状高台村			
53 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	7.8		底部2/8	長石・長石・雲母繊維少	10YR8/4/6薄青釉	10YR8/4/6薄青釉		円盤状高台村			
54 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	7.2		底部2/8	砂利・雲母繊維少	5/7H/5/8	5/71/1底白		好ナデ			
55 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	7.4		底部2/8	長石・長石中砂少、雲母繊維少	2.5/7H/6/8	2.5/71/1底白		好ナデ			
56 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	7.2		底部2/8	砂利・雲母繊維少	5/7H/5/8	5/71/1底白		好ナデ			
57 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	6.8		底部2/8	長石・長石中砂少	5/7H/6/8	5/71/1底白		好ナデ			
58 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	6.0		底部2/6	長石・雲母繊維少	7.5/7H/6/6	7.5/7H/6/6		好ナデ			
59 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	29.8		口縁部1/8	長石中砂少、雲母繊維少	10YR8/4/5/6	10YR8/4/5/6		好ナデ			
60 10 12	土新器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	31.0		口縁部1/8	長石中砂少	5/7H/6/8	5/71/1底白		好ナデ			
61 10 12	須惠器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	1.1		1.2±5.8/8	好筋粗砂粒少	N6/底	N7/71/1底白		好ナデ			
62 10 12	須惠器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	17.8		底部6/8	好筋粗砂粒少	10YR8/4/5/6	7.5/7H/6/6		好ナデ			
63 10 12	須惠器・壺	B地区 第2テラス	洗土層	11.4				N7/底白	N7/底白		好ナデ			墓合村
64 10 12	須惠器・壺	B地区 第2テラス	洗土層											

地名・図版番号	標高・基盤	露蓋	出土地点	口径	底径	高さ	外側		内面		摘要	備考
							残存量	土	色調	内面		
65 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			10.5	底径3.6	砂粒粘土質	N5/灰	褐ナダ	N6/灰	褐ナダ	高台付	
66 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			12.4	口縁部小片	砂粒粘土質	N6/灰	褐ナダ	N5/灰	褐ナダ		
67 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			13.8	口縁部小片	砂粒粘土質	5Y6/1灰	5Y7/1灰白	N6/灰	褐ナダ		
68 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			7.4	底部1/3	砂粒粘土質	N5/灰	褐ナダ	N6/灰	褐ナダ		
69 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			7.2	底部2/3	砂粒粘土質	10Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	N6/灰	褐ナダ		
70 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			13.6	口縁部小片	砂粒粘土質	5Y7/1灰白	N6/灰	褐ナダ	褐ナダ		
71 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			13.4	口縁部小片	砂粒粘土質	N6/灰	褐ナダ	N6/灰	褐ナダ		
72 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			7.2	底部1/3	砂粒粘土質	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	N6/灰	褐ナダ		
73 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			7.9	底部2/3	砂粒粘土質	10Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	N6/灰	褐ナダ		
74 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			12.8	底部1/3	砂粒粘土質	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	N6/灰	褐ナダ		
75 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			10.6	底部小片	砂粒粘土質	10Y7/1灰白	2.5Y8/2灰白	N5/灰	褐ナダ		
76 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			7.0	底部4/5	砂粒粘土質	10Y7/1灰白	2.5Y8/2灰白	N6/灰	褐ナダ		
77 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層			4.8	底部4/5	砂粒粘土質	5Y7/1灰白	5Y7/1灰白	N6/灰	褐ナダ		
78 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層						N7/灰白	N7/灰白	N6/灰	褐ナダ		
79 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層						7.5Y6/1灰	N7/灰白	N6/灰	褐ナダ		
80 10 12 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土層						N6/灰	N7/灰白	N6/灰	褐ナダ		
81 10 12 梅鹿島・林 B地区	第2テラス 流土層						10Y6/1灰白	5Y8/2灰白	N6/灰	褐ナダ		
82 10 12 土壌段・坪 B地区	第2テラス 流土層						N4/灰	N6/灰	N6/灰	褐ナダ		
83 10 12 梅鹿島・要 B地区	第2テラス 流土層			11.4	底部1/8	砂粒粘土質	N6/灰	N5/灰	N5/灰	褐ナダ	表剥離	
84 10 12 梅鹿島・要 B地区	第2テラス 流土層			11.4	底部小片	砂粒粘土質	N5/灰	N7/灰白	N6/灰	褐ナダ		
85 10 12 梅鹿島・要 B地区	第2テラス 流土層			9.1	底部小片	砂粒粘土質	N5/灰	N6/灰	N6/灰	褐ナダ		
86 10 12 土壌段・坪 B地区	第2テラス 流土層			17.5	口縁部小片	石英・長石等少 少	10Y7/6弱青	10Y7/6弱青	N5/灰	褐ナダ		
87 11 13 梅鹿島・坪 B地区	第1・2斜面 流土層			13.6	口縁部1/8	砂粒粘土質	N5/灰	N5/灰	N5/灰	褐ナダ		
88 11 13 土壌段・坪 B地区	第1・2斜面 流土層			7.5	底部5/8	長石・雲母細粒少	2.5Y7/4灰青	2.5Y7/4灰青	N5/灰	褐ナダ		
89 11 13 梅鹿島・坪 B地区	第1・2斜面 流土層			12.5	口縁部1/8	砂粒粘土質	2.5Y5/2弱灰青	2.5Y5/2弱灰青	N5/灰	褐ナダ		
90 11 13 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土			11.2	1/8	砂粒粘土質	N5/灰	N5/灰	N6/灰	褐ナダ		
91 11 13 梅鹿島・坪 B地区	第2テラス 流土			13.2	小片	砂粒粘土質	N6/灰	N6/灰	N6/灰	褐ナダ		

編文	標題	圖版	番号	種別・類種	調査 地区	出土地点	法面(cm)	保存量	胎土	色調		調査	備考	
										口径	底径	高さ		
92	11	13	56	用具	B地区	第2テラス 淤土層	1.7	1.7	砂粒細少	N8/灰	N7/灰白	ヘアリ、ホガリ	泥瓦用	
93	11	13	57	漆器・杯	B地区	第2テラス 淤土層	15.0	7.2	石英・黃石中砂少・砂粒細少	N6/灰	N5/灰	ホナデ	高台付	
94	11	13	58	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	7.6	7.1	石英・黃石中砂少	N6/灰	N4/灰	ホナデ	高台付	
95	11	13	59	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	17.0	—	口縁部(8) 石英・黃石中砂少	5YR6/8	5YR6/6	ハケ目	西端面	
96	11	13	60	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	13.8	7.6	3.4	口縁部(8) 石英・黃石中砂少	5YR5/6	5YR5/1オイ	ホナデ	多口瓶
97	11	13	61	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	9.2	—	全体部(8) 黃色砂少	N6/灰	N7/灰白	ホナデ	未調査	
98	11	13	62	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	13.4	8.6	3.2	口縁部(8) 石英・黃石中砂少・雲母細少	5YR6/8	5YR6/7	ホナデ	ヘアリ
99	11	13	63	灰陶・皿	B地区	第2テラス 淤土層	—	—	底部(8) 砂粒細少	N8/灰白	N8/灰白	ホナデ	自然物付	
100	11	13	64	漆器・皿	B地区	第2テラス 淤土層	8.9	—	口縁部(8) 砂粒細少	10Y7/1灰白	7.5Y7/1灰白	ホナデ	内面	
101	11	13	65	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	—	—	底部(8) 黃色・雲母細少	7.5YR8/6	7.5YR8/6	ホナデ	ヘアリ	
102	11	13	66	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	6.1	—	底部(8) 黃色砂少	5YR6/8	5YR6/8	ホナデ	ヘアリ	
103	11	13	67	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	8.0	—	底部(8) 砂粒細少	10Y7/1灰白	10Y7/1灰白	ホナデ	ヘアリ	
104	11	13	68	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	8.4	—	底部(8) 黃色砂少	5YR8/8明赤褐	5YR8/8明赤褐	ホナデ	ヘアリ	
105	11	13	69	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	7.8	—	底部(8) 砂粒細少	10Y7/1灰白	7.5Y6/1灰	ホナデ	ヘアリ	
106	11	13	70	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	6.8	—	口縁部(8) 砂粒細少	N5/灰	5YR6/6明赤褐	ホナデ	情子・しほり	
107	11	13	71	漆器・壺	B地区	第2テラス 淤土層	30.0	—	口縁部(8) 石英・黃石・雲母細少	10Y7/4/5	10Y7/4/5	ホナデ	ヘアリ	
108	11	13	72	漆器・壺	B地区	第2テラス 地山直上	18.4	—	底部(8) 石英・黃石中砂少・雲母細少	7.5YR6/6	7.5YR7/6	ホナデ	ヘアリ	
109	11	13	73	漆器・壺	B地区	第2テラス 地山直上	30.0	—	口縁部(8) 石英・黃石中砂少・雲母細少	5YR6/8	5YR6/8	ホナデ	ヘアリ	

第2表 石製品観察表

編文	標題	圖版	番号	調査 地区	出土地点	法面(cm)	保存量	胎土	色調		調査	備考
									外側	内面		
26	10	12	毛石	B地区	第2テラス 鹿鳴土層	5.2	1.9	1.8 壁片	安山岩	N4/灰	表面	表面
15	金属製品	白地区	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

編文	標題	圖版	番号	調査 地区	出土地点	法面(cm)	保存量	胎土	色調		調査	備考
									外側	内面		
15	金属製品	白地区	—	—	—	—	—	—	7.5Y8/2灰白	N5/灰	表面	表面



A) 中寺庵寺跡全景（南東より）



B) 地区第1テラスより大川山を望む（北西より）

図版3



日地区第1テラス疊石遺物跡南西半検出状況(南より)



A) B地区第1テラス磁石建物跡南西半石群検出状況（南より）



B) B地区第1テラスSD05全景（北より）



C) B地区第1テラスSD05全景（南より）

図版5



A) B地区第1テラス礎石建物跡から西部分検出状況(東より)



B) B地区第1テラス礎石建物跡から西部分検出状況(南より)



C) B地区第1テラス礎石建物跡から西の岩盤削平部分検出状況(南西より)



A) B地区第1テラス広場状遺構北半検出状況（東より）



B) B地区第1テラス広場状遺構北半検出状況（西より）



D) B地区第1テラス広場状遺構柱穴土層断面（北より）



C) B地区第1テラス広場状遺構柱穴南端部分検出状況（東より）



E) B地区第1テラス広場状遺構柱穴土層断面（西より）

図版7



A) B地区第2テラス東側（エリアB・D）全景（北から）



B) B地区第2テラス東側（エリアB）北壁a-a' 土層断面（南東から）

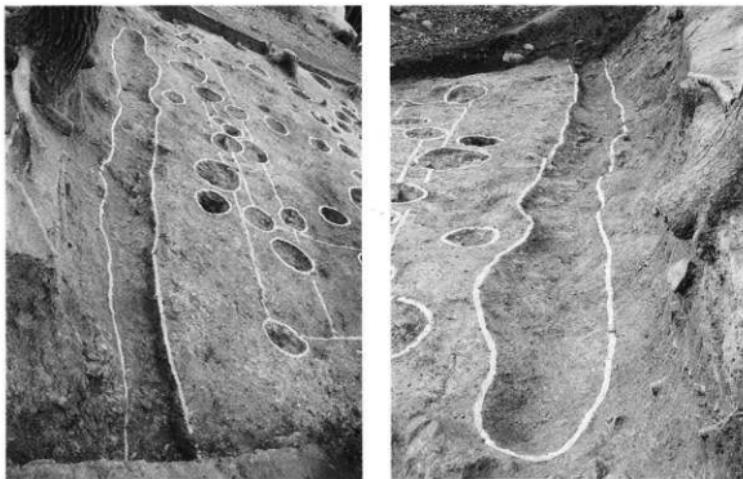


A) B地区第2テラス西側（エリアC）全景（北西から）



B) B地区第2テラス西側（エリアC）全景（南東から）

図版9



A) B地区第2テラスSD06全景（西から）

B) B地区第2テラスSD06全景（東から）



C) B地区第2テラス西侧（エリアC）西壁土層断面（北東から）



A) B地区第2テラスSB05-SP05土層断面(東から)



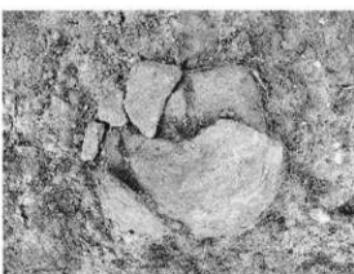
B) B地区第2テラスSB06-SP06土層断面(東から)



C) B地区第2テラスSB07-SP06土層断面(東から)



D) B地区第1・第2テラス間斜面検出状況(南から)

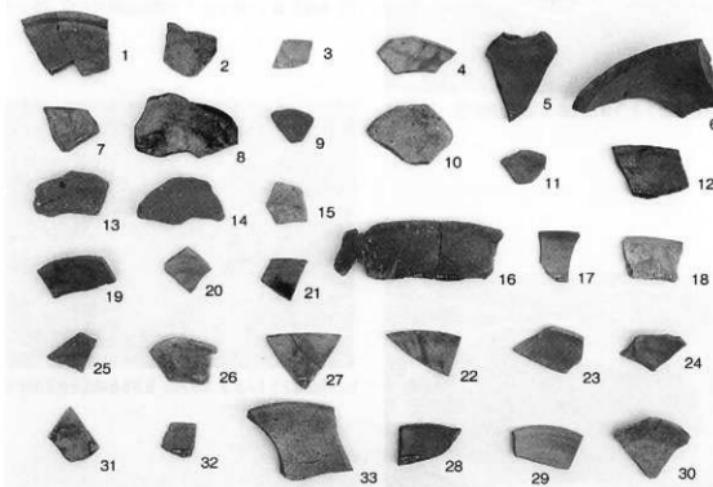


E) B地区第2テラス西側(エリアC) 朝文番号48出土状況(南から)

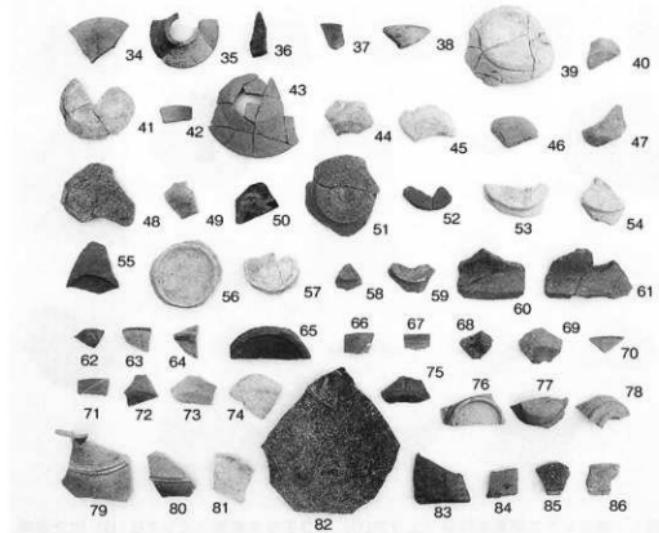
図版11



A) B地区第1テラス、第1・第2テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物（外面）



A) B地区第1テラス、第1・第2テラス間西側斜面（エリアC北）出土遺物（内面）

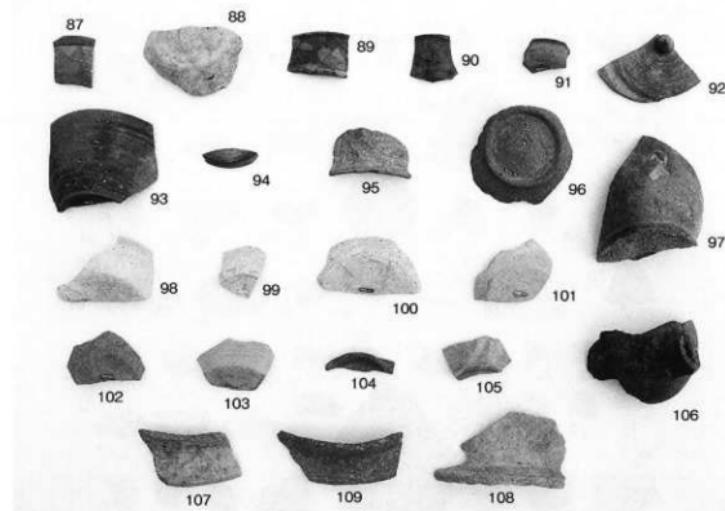


A) B地区第2テラス西側（エリアC）出土遺物（外面）

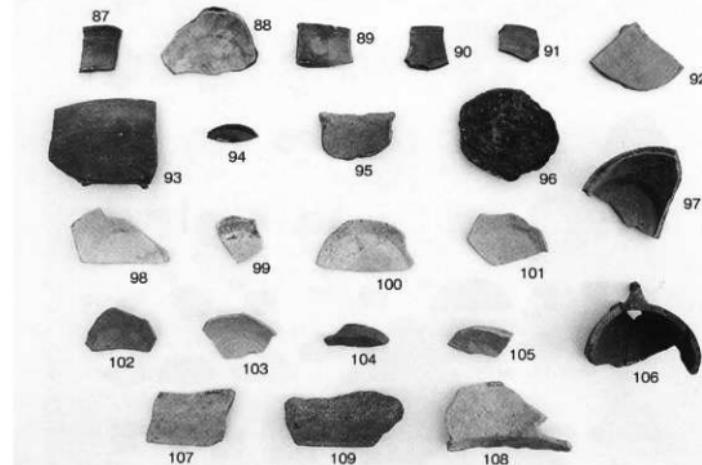


B) B地区第2テラス西側（エリアC）出土遺物（内面）

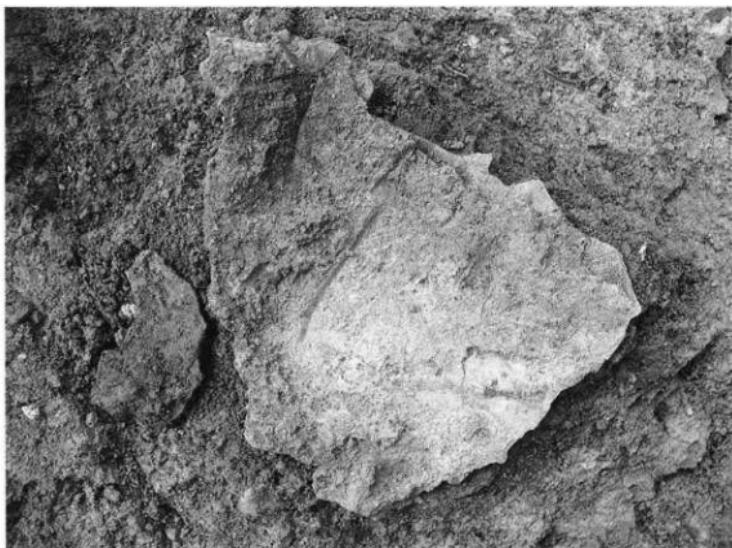
図版13



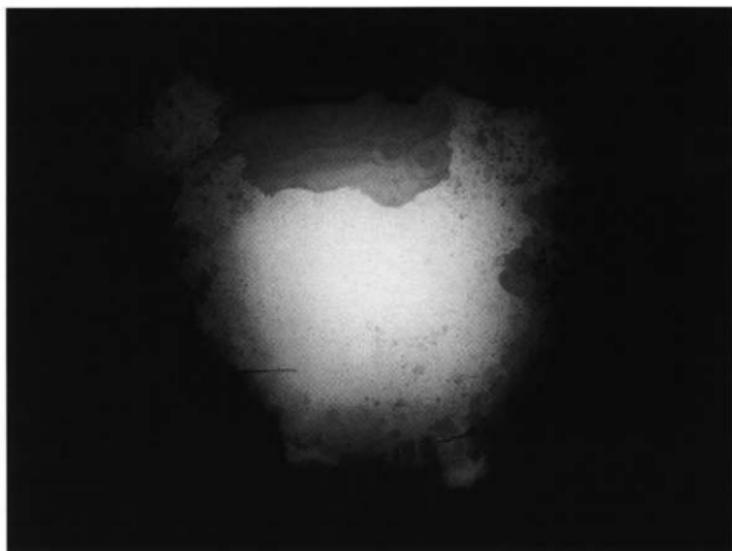
A) B地区第1・第2テラス間東側斜面（エリアD）、第2テラス東側（エリアB・D）出土遺物（外面）



A) B地区第1・第2テラス間東側斜面（エリアD）、第2テラス東側（エリアB・D）出土遺物（内面）

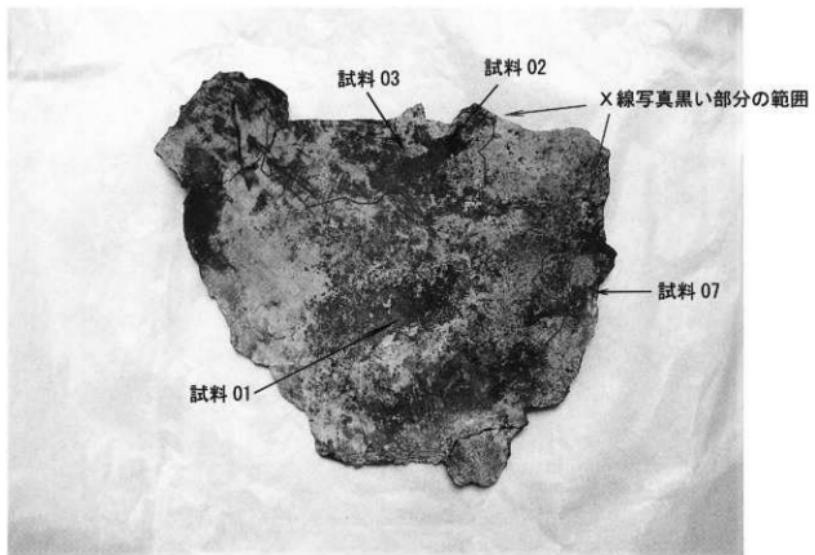


A) B地区第2テラス西側（エリアC）金属製品出土状況（北より）

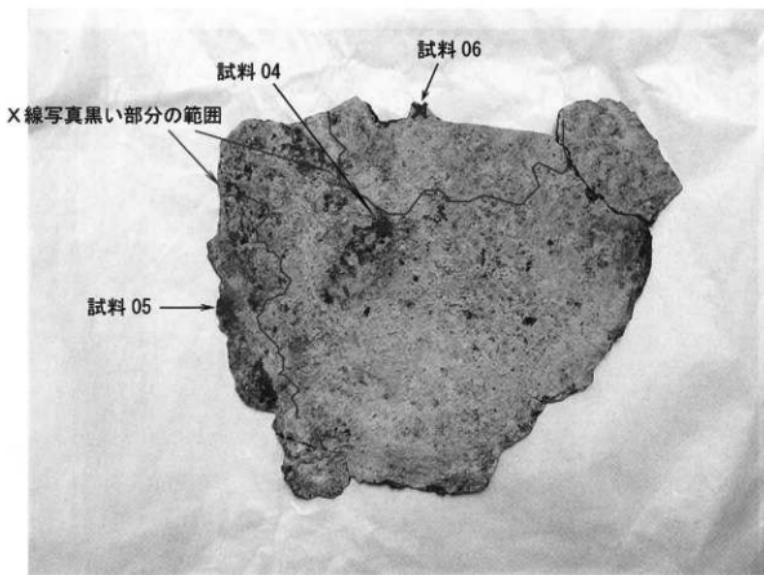


B) 金属製品X線写真

図版15



A) 金属製品蛍光X線試料測定点（内面）



B) 金属製品蛍光X線試料測定点（外面）

報告書抄録

まんのう町内遺跡発掘調査報告書 第6集

中寺廃寺跡
平成20年度

平成21年3月25日 発行

編集・発行 まんのう町教育委員会 中寺廃寺発掘調査室

〒766-0202

香川県仲多度郡まんのう町中通875番地 琴南公民館内

電話 (0877)85-2221

印 刷 株式会社 美巧社